いわきの歴史を伝える文化財

市教育委員会は、五月一日に新たに七件を市の文化財に指定しましたので、お知らせします。

有形文化財

【建造物】

○江名諏訪神社本殿＝江名字走出　諏訪神社所有

銅板葺きの一間社流造の社殿です。建立の際の寄付者の家紋を入れた後藤流と思われる胴羽目彫刻も見られ、また、他の市指定の社殿と比較しても、建立年代の古い出組形式を示す神社本殿として貴重です。

江名諏訪神社本殿

【古文書】

○伊勢屋所蔵文書＝江名字南町　個人所有

江名村という海村特有の浜方文書や海運文書、鰹節取引文書も散見され、地域性を多分に帯びた文書群です。

【彫刻】

○木造男神坐像＝平下高久八剱神社所有

桂材の一木造で彫られた御神像で、室町時代の造立と思われ、像高は二十二センチメートルあります。倚像の類例は少ない上に、しゃがむように両膝を立てて座している姿は類例がなく、儀式の一場面をあらわしたものと推測されます。

木造男神坐像

【歴史資料】

○長福寺縁起＝小川町下小川　長福寺所有

文政七年（一八二四年）に編まれた縁起で、多くの中世文書に加え、原本の虫損の痕なども忠実に書き写されています。筆者は、磐城平藩安藤家家臣（中老）で、江戸時代後期のいわきを代表する知識人であった鍋田三善です。

○安藤家狩場の図＝内郷綴町　個人所有

文化十年（一八一三年）に行われた藩主安藤信義による狩り場の全域を俯瞰した図です。作品が少ないとされる青沼狭山の大作であり、近世後期の屋敷構えや里山の景観が見てとれ、馬印や家紋等の描写にも注意が払われており、当時の平藩の軍制を知る手掛かりにもなるものです。

安藤家狩場の図

史跡

○岩城家墓所＝平下荒川　龍門寺所有

龍門寺の開基とされる岩城家の累代の墓所。室町時代の被葬者を確定できる墓石は稀有であり、岩城家の足跡をたどる上で、極めて貴重な墓跡です。

岩城家墓所

天然記念物

○本行寺のオハツキイチョウ＝平上片寄　本行寺所有

樹高二十一・五メートルのイチョウで、通常のイチョウとは異なり、枝ではなく葉の先に実がつく特徴は、希少性があります。現段階で確認されている、市内で唯一のオハツキイチョウです。

▶本行寺のオハツキイチョウ

◇　◇　◇

今回の指定により、市内にある市指定文化財は百八十一件となりました。

○お問い合わせ
文化・スポーツ課
文化財係
☎22・7546

進んでいます　いわきの復興 ②

整備が進む海岸堤防事業

○整備状況（平成26年６月末現在）

・市内21地区海岸のうち、15地区海岸の約21キロメートルで工事に着手
・平成26年３月に、関田地区海岸堤防の一部で整備が完了。平成27年度末までに、全ての海岸堤防整備を完了予定

久之浜地区海岸堤防

関田地区海岸堤防

７月から市災害公営住宅四倉南団地で入居開始

市災害公営住宅で６番目の入居開始となった四倉南団地（四倉町上仁井田）

本年11月末のしゅん工に向けて建設が進む小名浜魚市場等施設（１号ふ頭）

水産業の拠点施設となる小名浜魚市場

いわき応援大使の紹介 ①

あかつさん
（お笑い芸人）

私は、いわき市の魅力と売りを、日本全国はもちろん、海外の方にも興味を持っていただき、いわき市に遊びに来てもらえるよう、いわき市を盛り上げます。

そして、日本の代表的な街になるよう、皆さんと共に情報発信していきます。

井上聰史さん
（政策研究大学院大学客員教授）

いわき市の緑豊かな山々、青い海と砂浜、とびきり美味しい魚と厚い人情、どれをとっても魅力に溢れています。

東日本大震災からの復興と、さらなる地域づくりに少しでも皆さんのお手伝いができるよう、努めてまいります。

岡田美智子さん
（女子プロゴルファー）

私の母など親族が、いわきに在住していることもあり、いわき市民の皆様の不安とご苦労はお察しいたします。

私も生涯現役を目指して頑張っており、今後もゴルフを通して微力ながら「いわき応援大使」として、故郷を応援してまいります。

柏木昇さん
（東京大学名誉教授）

いわき市には、高校卒業までお世話になりました。あまり勉強をしなかった代わりに、水石山や閼伽井嶽に行ったり、いわき七浜で遊んだり、子供生活を楽しみました。

故郷いわきに、いくぶんでも恩返しができれば幸いです。